

<p><b>東海市立渡内小学校</b>  <b>住所 東海市荒尾町義呂1-1</b>  <b>電話番号 052-604-0666 児童 404名</b>  <b>校長名 飯田 佳洋 ｸﾗｽ 17学級 (内 特支2)</b></p>		<p>○教育目標                  ○めざす子ども像                  ○経営方針</p>		<p>・広い知識 豊かな心 強い体                  ・広い知識と正しい判断力をもつ子 ・礼儀正しくおもいやりの心をもつ子 ・心身ともに健康でたくましい子                  ・児童にとって魅力がある学校づくり〔学思行相須ツ〕                  ・児童が、明るく良好な人間関係を築くことができる学校づくり〔先施の心〕                  ・児童が、心身ともに健やかに成長できる学校づくり〔勇なるかな勇なるかな、勇にあらずして何をもって行わんや〕</p>		資料
中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和6年2月日	来年度の改善策
基礎・基本の徹底を図り、自ら課題を見つけ、自ら解決しようとする力の育成	子ども理解を深め、一人一人の個性・能力に応じた支援を行う。	学校評価アンケート 児童：先生は熱心に指導くれる。 児童：先生は、がんばったことをほめてくれ、いけないことはしかってくれる。 保護：先生は、よいところは褒め、悪いことはきちんと指導している。 保護者：職員は子どもを大切にしてくれている。 教師：児童のよいところを認め、褒めている。 教師：発達障害について理解を深め、全ての児童に分かりやすい授業を進める努力をしている。	(評価A) 児童・保護者ともに教師の支援に対する満足度は維持されており、市全体の結果よりも上回っている。教師の発達障害を含めた児童理解が児童への指導につながっていると考えられる。	児童は、落ち着いた学校生活を送っており、家庭の理解と協力によるところが大きい。今後も、教師が児童としっかりと向き合い、保護者と話し合いながら、児童一人一人の理解に努め、成長を促す指導・支援を進めていく。	授業公開等の様子からも、児童は落ち着いた学校生活を送っている。今後も児童一人一人と向き合い、保護者と連携して指導・支援を進めて行くことが大切だと考える。	・児童一人一人の理解に努め、家庭との対話を大切にしたい支援を続ける。 ・専門家による個に応じた対応を検討する機会をもつことを継続し、支援に努めていく。
	わかる授業、楽しい授業に取り組む。	学校評価アンケート 児童：授業は楽しい。 児童：授業の内容はよくわかる。 教師：楽しい授業を実践している。 教師：わかる授業を実践している。 教師：ICTを有効に活用した授業を実践している。 保護者：先生はわかりやすい授業をしている。 児童：タブレットを使った授業は楽しい。 児童：タブレットやデジタル教科書などを使った授業は、わかりやすい。 保護者：渡内小はICTを活用した授業を行っている。	(評価B) 授業が「楽しい」「わかる」と感じている児童が増加している。グループ活動等が制約なく行えるようになったことやICTの効果的な活用が進んでいることが寄与していると考えられる。	授業が「楽しく」、「わかる」ことが理想である。これから、さらに「楽しく」「わかる」授業に向けて、多くの手立てをもって授業の展開をしていく必要がある。ICTについては、今後も「有効な活用」に向けて研修と実践を積み重ねていく。	「楽しい・わかる」授業をしている教師の割合が下がっているがどうか。→少経験者が多く、自信がもてなかったり、ICTなど増えていく内容に対応し切れなかったりして、授業をすることに精一杯で、わかる、楽しいと言いつれないところが予想される。	・現職教育や相互授業観察等を通して、若い教員も自信をもって授業に取り組めるようにする。 ・ICTの効果的な活用を推進し、その様子を授業公開等で保護者に知ってもらう。
他を思いやる心・自主的にはたらきかける力の育成	あいさつ・返事を習慣化させる。	学校評価アンケート 児童：家族や旗当番、地域の人にあいさつをしている。 保護者：児童は家庭内や地域であいさつをしている。 地域：児童はあいさつをしている。 教師：あいさつ・返事の指導をしている。 教師：児童はあいさつをしている。 教師：率先してあいさつをしている。	(評価B) 児童、保護者共に家庭であいさつができていく割合が高い。家庭外については、児童と保護者の結果に大きな隔りがある。家庭でできていく様子と比べ、家庭外でのあいさつは十分でないと思えていく保護者が多いと考えられる。	校内では学年が上がるにつれ、自分からあいさつしたり、教師のあいさつに応じたりできる児童が増えている。児童があいさつの意味を理解し、地域でも行動できるよう、学校と家庭の両方からの子ども達に対する働きかけをしていく。	児童館では、自分からあいさつをする子が少なく、大人から根気強くあいさつするようにしている。 家庭外でのあいさつが50～60%となると、集団の質に課題がある。集団の質向上のために、機会にふれて、声をかけていく必要がある。	・児童にあいさつの意味を説き、教師自身が率先垂範したり、委員会で啓発活動をしたりして、あいさつの輪を広げていく。 ・PTAやコミュニティを通して、家庭や地域での働きかけを依頼していく。
	学校のルールを守り、社会のルールも守ろうとする意識を育てる。	学校評価アンケート 児童：学校のきまりを守って学校生活をしている。 児童：交通安全に気をつけ、交通ルールを守っている。 児童：公園等では、他の利用者に迷惑をかけていない。 保護者・地域・教師 ・子どもたちは、交通安全に留意して生活している。 ・公園等では、他の利用者に迷惑をかけていない。	(評価B) ほとんどの児童がきまりやルールを守れていると考えているが、大人、特に保護者の結果と大きく隔りがある。下校時の様子等から、児童が思っている以上に危ない行動が見られることが一因と考えられる。	多くの児童はルールを守ろうと生活している。しかし、交通ルールや地域の公園の利用のマナーにおいて心配の連絡を時折いただく。学校と家庭の継続した指導に加え、地域見守りや声がけ、関係諸機関の支援も依頼していく。	キックボードの使い方が悪かったり、坂道を自転車で勢いよく下りていたりする場面をよく見る。その都度注意はするが、学校でも全体に注意喚起をし、交通安全の意識向上に努める必要がある。	・教育活動を通して、粘り強く指導していく。 ・家庭、地域に実態を伝えながらタイムリーな啓発活動をおこなっていく。 ・計画的な安全指導を行っていく。
健康な心身の育成	健やかな心を育てる。	学校評価アンケート 児童：渡内小が好きである。 児童：学校生活は楽しい。 児童：相談できる先生がいる。(相談できる) 児童：先生以外に相談できる人がいる。(家族・友人) 保護者：職員は、子どもを大切にしてくれている。 保護者：職員は、相談しやすい。	(評価B) 「学校が好き・楽しい」と答えた児童は多く、増加もしている。92.2%の児童が誰かに相談できると答えている。しかし、学校が楽しくない、相談する相手がいない児童がおり、そこに焦点を当てる必要がある。	学校が楽しくない、相談する相手がいないと答えた児童が一定数いることから、教師が、日々児童一人一人の様子を見取り、声をかけ、家庭との密な連絡を継続していき、必要に応じて関係諸機関との窓口となるよう努める。	保護者としては、いきなり先生に相談するのではなく、まずは親同士で確認や相談したいと思うところもある。しかし、親同士の関わりが少ないと、それも難しいかもしれない。	・一人一人の様子を見取り、声をかけ、家庭との密な連絡を継続していく。 ・「SOSミニレーター」等外部の窓口も含め、さまざまな相談方法を周知していく。
	規則正しい生活、食育指導に取り組む。	学校評価アンケート 児童：家で学習をしている。 児童：規則正しい生活をしている。 児童：好き嫌いなく給食を食べている。 保護者：学習習慣がつくよう配慮している。 教師：家庭学習を課し、家庭での学習習慣を身につけさせている。 教師：給食を好き嫌いなく、残さず食べるよう指導している。	(評価B) 児童自身の評価は76%であり、保護者のも同程度であることから、学校と家庭との連携が必要である。給食を残さず食べると答えた児童が増加しており、グループ会食の再開が一因と考えられる。	家庭との連携が不可欠であるため、懇談会や日常の連絡等での個別の働きかけや、啓発活動を通じて児童から児童への働きかけも継続していく。	残さず食べる児童が増えているが、指導を心がけている教師が減っている。自分の食べられる量を考え、事前に調整して食べるよう指導をしていいうことであるので、栄養バランスを考えた個に応じた指導をしていく必要がある。	・懇談会や日常の連絡等で、個別の働きかけや啓発活動を続けていく。 ・会食の時間をしっかりととり、栄養バランスを考えた個に応じた指導をしていく。
保護者や地域に開かれ、信頼される学校づくり	学校教育活動の公開に努め、ホームページや各種たよりの充実を図る。	学校評価アンケート 教師：学校の様子を知らせている。 保護者：知りたい情報が盛り込まれている。 地域：学校の様子がわかる。	(評価B) 保護者、地域住民ともに肯定的な回答が増加している。しかし、約3割の保護者が、否定的または「わからない」と回答しており、保護者が知りたい内容が十分に伝えられていないと考えられる。	家庭や地域のニーズを把握しながら、ホームページや各種たよりによる情報提供に努めていく。	ホームページで知りたい情報は何かと考えると、あえてホームページを活用しなくても考えるよりも、児童の様子がよくわかる校内の掲示物等を多くの人に見てもらえるよう周知するなどの方法を考えるとはどうか。	・児童の実際の様子を見ていただける機会を設けていく。 ・掲示物やたより等で学校の様子がわかるよう周知をしていく。
	地域人材の活用にとともに、地域行事への参加を呼びかける。	学校評価アンケート 教師：地域の教育力を生かしている。 保護者：地域の人材を活用している。 地域：協力依頼があれば、協力したい。 地域：学校は、地域の活動や行事に協力している。 地域：地域の行事等で子どもとふれ合っている。	(評価B) 教師、地域ともに肯定的な回答が大きく増加している。外部講師を招いた授業や、地域の行事が制限なく再開できたことの影響が大きい。	地域の方、企業、団体、コミュニティから多くの支援を受けて、教育活動が実施できている。地域の人材の活用は、今後も児童の成長に必須であるため、今年度の内容を継続させ、更なる人材の発掘に努めていく。	地域の行事に学校がどのように協力していけるかともに考えていきたい。地域の行事は地域の人と子どもたちのふれあいの場として大切にしたい。	・学校支援協議会を通じて、必要な支援について、地域や保護者に広く発信していく。 ・地域の行事に協力していただける新しい形を検討していく。